由利本荘市立由利中学校 校報　　「チーム由利中　心ひとつに」

根堀台だより

平成28年12月5日

第 68 号

校 訓「 進 歩（文 ）」「 健 康（武 ）」「 協 力（道 ）」

市交流報告会
「箕面市中学生交流訪問団」

〇〇さんの体験発表

１２月２日（金）の午後４時から、西目総合支所の第一会議室で「由利本荘市・箕面市中学生交流訪問団報告会」が行われました。本校からは３年生の〇〇〇〇さんが参加し、「英語スピーチ」について報告をしました。

この事業は今年で２年目となりますが、由利本荘市と箕面市の中学生が交流を通して、お互いの地域の文化の違いを理解し、新たな学びを発見することを目的としたものです。１泊２日という大変限られた時間の中で、「生徒会」や「英語教育」の取組が主な交流となっています。

今年の「生徒会学習会交流」のテーマは、「いじめの加害者にも被害者にもならないために、大切なことは何か」で、本荘南中と矢島中の生徒が自校の取組について発表した後、各グループ毎に協議しましたが、全体協議では〇〇さんも含め、由利本荘市の代表１０名全員が自分の考えを発表し、その積極的な姿勢が高く評価されたそうです。

生徒会サミットでは、大阪の人は自分から意見も堂々としゃべっていたし、進行役も「私やります」という感じで全然恥ずかしがらずに積極的でビックリしました。私も今日の人たちのように自分の意見を堂々と話せる人になりたいと思いました。

学校訪問は「彩都の丘学園」でしたが、この学校は特別なカリキュラムをもつ「小中一貫校」です。１年生の授業には各クラス２名ずつに分かれて，秋田の文化や特色など、写真を使って説明しました。きりたんぽやなまはげについて説明したり、秋田の方言を教えたりして、さながら「教育実習」のような感じだったそうです。

また、９年生（中学３年生）の「外国語コミュニーケーション科」の授業では、本校と同様「ALL　ENGLISH」で行われており、英語を話すことや聞くことに抵抗感がなく，大変楽しい授業であったようです。また、ここで〇〇さんは岩城中や大内中の代表生徒と共に「英語スピーチ」を披露し、交流活動を行いました。

今日は彩都の丘学園に行きました。小学校１年生～中学校３年生までがどうやって一緒に過ごしているんだろうと思っていきました。９年生みんなが仲良く過ごせるような工夫をしていました。一緒にやる行事も沢山あっていいなと思いました。

英語の授業ではみんなとても Friendly で、沢山質問してくれたので、こっちからも話しやすかったです。また、クイズも面白い物が沢山あって答えを考えるときは私も一緒にまぜてくれたのですごくたのしかったです。
スピーチは緊張したし、不安でした。ミスしたところもあったけど、成功したなと思いました．授業の後は他のグループの人とも話したし、花道では同じグループの人に手を振ったりと、とても楽しかったし、いい学校だなと思いました。

彩都の丘学園では「給食」も８年生（中学２年生）と一緒に食べましたが、その日のメニューは「クジラバーガー」でした。クジラ肉のフライをパンに挟んで食べるのですが、秋田では最近「クジラ肉」を食べる機会が余りないこともあり、引率の先生は「苦手だった」という感想を漏らしていました。しかし、１０名の生徒は大変食欲旺盛だったようですのできっと「完食」したと思います。「秋田の給食のおいしさ」にも、気付くことができたのではないでしょうか。

今回の交流で英語で話すことが前ほど苦手でなくなったなと思います。大阪の人は話しやすくて、沢山コミュニケーションがとれました。大阪は秋田と違ってすごく都会だし、秋田でなかなか見られないようなものも見れたので、すごくいい経験になりました。
秋田では当たり前にすることだったり、言うことでも、あっちでは驚くようなことだし、逆にあっちの当たり前がこっちでは「え～」というようなこともありました。日本国内でもこんなに文化は違っていて面白いなと思いました。
大阪の人の話しやすい雰囲気や積極性をもてるようになれば、秋田県もよりよくなるんじゃないかなと思いました。私はこれから、その話しやすい雰囲気と積極性を大事にしていきたいです。　（以上〇〇さんの「交流レポート」から抜粋）

３年生の〇〇さんにとっては、貴重な受験勉強の時間を割いての２日間でしたが，得た物も沢山あったと思います。
引率者の先生からは「大阪の子どもたちは分からないことは分からない。だから教えてくれという姿勢が見られた。これはとても大切なことだ。」というお話がありました。私たち「寡黙な秋田県人」には少し耳の痛いところだと思います。逆に「地道にコツコツ頑張る秋田県人」のよさは、関西人にとっては「驚き」があるかもしれません。互いに自分にはない他人のよさを認め合うことで、人は成長していくものです。是非この体験をよい機会として次にいかしていってほしいものです。
〇〇〇〇さん，学校代表としてよく頑張りました。ご苦労様でした。

「根を養えば　樹はおのずから育つ」

「根を養えば　樹はおのずから育つ」という言葉があります。 地中の根は、目立たないものです。決して人目につくものではありません。しかし、コツコツとした地中の営みが、やむことなく続けられさえすれば、やがては芽を出し、成長し、大樹にまで発展するものだということを語っている言葉だと思います。
根とは、基本的な「凡事」です。「凡事」とは、平凡なあたりまえのこと、能力のあるなしにかかわらず、誰でもやろうと思えばやれる事柄のことです。本校では「立ち止まりあいさつ」と「無言清掃」が「凡事」だと思います。
最近、本校の「あいさつ」や「無言清掃」の取組が以前に比べてどうかという声が聞こえてきます。「根を養えば　樹はおのずから育つ」という言葉は、今一度「凡事」を軽んずることなく実行すること、ともかく「やりつづけること」の大切さを教えてくれているように思います。
そしてこれは「勉強」にも通じる言葉です。３年生が高校入試に向けて「今、頑張る」のではなく、中１・中２の時にすでに地中に「勉強の根」を張っていなければならないのです。冬のこの時期だからこそ今一度「根を養えば樹はおのずから育つ」という言葉の意味を振り返ってみて下さい。